

40 ビルド&スクラップ研修

目的	自治体財政が厳しい状況の中、新たな行政ニーズにも応えるためには、目的志向で事業を見直すことが必要である。自治体の財政の健全化を図りつつ、新たに生まれる行政ニーズにも応えるため、「発想の転換」と「知恵と工夫」によって、政策課題を解決するための考え方と手法を学ぶ。		
内容	(1) ビルド&スクラップの本質的な意味を理解する。 (2) 具体的な成功事例を通して様々な事業の見直しのアイデアの知識を得る。 (3) 自身の身近な業務の中でビルド&スクラップを考える。		
実施年月日	令和7年 6月25日(水)	定員	42名
対象者	係長等以上の職員		
実施場所	大分県自治人材育成センター		
推薦期限	令和7年5月30日(金)	《第5回》	経費内訳 内訳表1
指定ホテル	—	その他留意事項	—
研修講師 (プロフィール)	【株式会社インソース 高本 隆一(たかもと りゅういち)氏】 東京大学大学院 工学部応用化学専攻 修了 1987年 株式会社資生堂に入社。基礎科学研究部に所属。高機能スキンケアの開発を担当。有効成分の皮膚浸透測定装置の開発で、アジアの科学者500人に選ばれる(1997年度 Who's Who に掲載)。皮膚浸透性に優れた美白美容液を開発し、効果データに基づく販促や店頭セミナーの推進により、100億円の売上達成に貢献。2000年 本社経営企画部に選抜される。グループ全体の経営予算の策定と経営管理に従事。国内化粧品事業と関連事業の統合・組織再編、メガブランド戦略の立案と実行、事業実績評価制度改定など、業務改革を主管。売上・利益ともに過去最高を達成し、部長に昇格。2008年 株式会社ダイアナに経営企画室 室長として入社。新規事業として、スキンケアブランドの通販、通販会社の企画・開発・販売を手がける。2011年 株式会社東洋新薬に化粧品事業部 事業部長として入社。処方開発の責任者として、新技術を活かした企画とアイテムの開発に従事。営業企画にも関わり、販促活動も推進したことで、売上前年比 250% を達成するなど売上拡大に大きく貢献。2016年 株式会社インソース講師に就任。東京大学大学院工学部応用化学専攻 修了 研究職出身である一方で、経営企画部に所属してマーケティングや新規事業開発といったクリエイティブな業務経験も持つ講師。理想論にとらわれず、人間の本質を突いた現実味を帯びた「腑に落ちる」講義を得意とする。経営および現場の双方の立場を理解した講義と、受講者の課題に沿った的確なアドバイスにより受講者の着実な成長をサポートする。 <<分野>> 管理職研修、評価者研修、リーダーシップ研修、マーケティング研修、企画力研修、など		
受講者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の現場の事例など、とても参考になりました。業務改革に向けたヒントを得た感じがします。 ・ビルドするためのスクラップの重要性について理解できました。自組織内の職員に広く受講してもらいたい内容でした。 ・今回の研修を通して、人やお金、時間など、限られたリソースをどのように最適化していくかを考えるうえで、今やっていることを抜本的に見直したり、固定概念を捨てたりすることの大切さを再確認できました。また、業務を行う上で、目指す姿をしっかりとイメージすること、効率を高めていくこと、そして現状をいかに変えていけるかという視点をもつことが大切であることも理解できました。 ・何が重要なか、何が妨げとなっているのかを明確にし、変えるべき意識を常に持ち、今日から明日からの行動につなげる気持ちになりました。 ・スクラップすることばかりを考えていた私にとって新たな事業や業務を導入するために、いかに既存の事業や業務を縮小したり廃止していくことを考えていくことが大切であるのかを本研修をとおしてその手法を学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。 		
備考			

時間割									
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	8:50	20	30					15	
1日目	受付	オリエンテーション	1. 「ビルド&スクラップ」が求められる背景とは (1) 近年の自治体を取り巻く状況 (2) 自治体の行財政改革を取り巻く出来事 2. 民間企業における「スクラップ&ビルド」との違い (1) 利益(≒財政の健全化)がゴールではない (2) 一度始めた事業は簡単に止めるわけにはいかない (3) やめる理由を自己矛盾なく説明できなければならない 3. 「ビルド」に向けた発想の転換 (1) 散えて「ビルド&スクラップ」と表現する理由 (2) 民間への移管を通して地域のニーズを持たす (3) 民間のノウハウを取り込んで直営事業の改善につなげる (4) 「丸抱え」ではなく「しくみづくり」で課題を解決する	昼食		4. 「スクラップ」に向けた取り組み (1) まずは業務の効率化から (2) 設備・組織の統廃合 (3) 事業の廃止における判断基準 5. ビルド&スクラップに欠かせない「行政評価」 (1) 行政活動と行政評価の関係 (2) 事務事業における評価の観点 6. 自治体におけるビルド&スクラップの事例 7. まとめ			閉講

※上記内容は、研修実施時に変更されることがありますので、予めご了承ください。